

## 2022年1期3課 約束の子イエス

【暗証聖句】「この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって…」ヘブライ人への手紙 1:2,3

### 【今週のポイント】

今週はヘブライ人の中に描かれているイエス様についてピックアップし学びます。

### 【日・終わりの時代に】

ヘブライ人への手紙の最初の段階から、自分たちは終わりに時代に生きているのだと信じていることがわかります。ところで、聖書は終わりという言葉、大きく2つの異なる意味合いで用いています。一つは「終わりの日」「後の日」と表現されることが多いのですが、一般的にそれは、ある時代の終わりを意味しているのに対して、もう一つは「終わりの時」という言葉で、これは地上の歴史の最終時代を意味しており、ダニエル書の中で使われています。たとえば、以下の2つの聖句では、「終わりの日」という言葉が次のように使われています。

民数記 24:14~17 「…後の日にこの民があなたの民に対して何をするか、あなたに警告しておきます…わたしには彼が見える。しかし、今はいない。彼を仰いでいる。しかし、間近にはない。ひとつの星がヤコブから進み出る。ひとつの笏（しゃく）がイスラエルから立ち上がり、モアブのこめかみを打ち砕き、シエトのすべての子らの頭の頂を砕く…」

イザヤ 2:2,3 「終わりの日に主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち、どの峰よりも高くそびえる。国々はこぞって大河のようにそこに向かい多くの民が来て言う。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。主の教えはシオンから、御言葉はエルサレムから出る。」

「終わりの日」という言葉が、ここではイエス様が来られる時を指していることがわかります。それゆえ、イエス様がこの地上に来られたときから、終わりの日、終わりの時代が始まっていると聖書は教えていることがわかります。

また「終わりの時」という言葉は以下のように出てきます。

ダニエル 12:4 「ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして、知識は増す。」

では、ヘブライ人への手紙ではどうでしょうか。1章1,2節を見ると、「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」と、終わりの時代と表現しています。先の民数記やイザヤ書の「終わりの日」と同じ、イエス様が来られたときのことを現わしていることがわかります。

### 【月・御子を通して語られる神】

イエス様が来られるまで、ユダヤにはマラキヤやエズラ、ネヘミヤなどの預言者を最後に、預言者が4世紀近くにもわたって途絶えていました。旧約の預言者たちが語った言葉は神様からの言葉でありました。それは疑いようもない事実なのですが、預言者たちの言葉はジグソーパズルのピースのように、断片的であったり、意味がはっきりしなかったり、間違った解釈や適用をされてしまうことが少なくありませんでした。ところが、4世紀もの沈黙を破るかのよう天から来られたイエス様は、その神様の言葉のピースをあるべき場所におさめ、完全な絵を描いて下さったのです。

ヘブライ 1:1,2 「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」とはっきりと語られています。イエス様の言葉が完全な神の言葉でした。なぜそう言えるのでしょうか。3節にこう続きます。

ヘブライ 1:3 「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって」

イエス様は預言者たちのように神様から言葉を預かって語られたのではなく、イエス様自身が神様であり、ゆえにその語る言葉も神様の言葉そのものなのです。イエス様は旧約で語られた言葉が真に意味していることを示したり、さらに深めたり、誤解や間違った解釈を訂正していくと共に、ご自分が旧約で繰り返し預言されているメシアであることを明らかにされたのでした。

### 【火・神の栄光の輝きなるイエス】

ヘブライ 1:3 に、「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって」と書かれてあります。イエス様はフィリポに、「わたしを見た者は、父を見たのだ」（ヨハネ 14:9）と言われたことがありましたが、イエス様は人の姿を取られてはいましたが、それでも父なる神様の栄光の反映であり、神様の本質の完全な現れだったのです。その一旦を垣間見た瞬間がありました。それは有名な変貌の山での出来事です。イエス様が天から遣わされたモーセとエリヤの前に立ったとき、突如その御姿がまばゆく光り輝いたのです。

**マタイ:17:1~3 「六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた」**

まるでそれまで抑えていた神の栄光が、あふれ出たかのようです。出エジプト 24:16,17 を見ると、「主の栄光がシナイ山の上にとどまり、雲は六日の間、山を覆っていた…主の栄光はイスラエルの人々の目には、山の頂で燃える火のように見えた」とあります。それくらい神様の栄光というのは圧倒的で近づきたい光であることがわかります。確かに、神様の栄光を反映しているものは自然界の中にもありますし、私達も神様の栄光を反映するために創造されました。しかし、文字通り神様の栄光の光を発するものではありません。でも、イエス様はその神の栄光の光を放っていたのです。

また、これ以上に被造物に不可能なのは、神様の本質を完全に表すことです。罪びとである私達は、罪のない神様の本質を完全に現わすことはできないのです。しかし、イエス様は違いました。イエス様は神の本質の完全な現れであったのです。イエス様は、その存在と本質において、完全に神様と一致していたのです。

### 【水・神は御子を通して宇宙を創造された】

**イザヤ 45:18 「神である方、天を創造し、地を形づくり、造り上げて、固く据えられた方、混沌として創造されたのではなく、人の住む所として形づくられた方、主は、こう言われる。わたしが主、ほかにはいない」**

私達は神様を創造主と呼ぶことがあります。それは聖書にそのように記されているからですが、一般的な偶像の神々とは明らかに違う印象を与えます。天地万物を創造された主なる神は、他にはいません。旧約聖書では、この点が特に強調されています。ヘブライ人への手紙を読んだとき驚かされるのは、「神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました」（ヘブル 1:2）と書かれてあることです。また、1:3 「御子は…万物を御自分の力ある言葉によって支えておられます」（ヘブル 1:3）とも書かれてあります。旧約では漠然と神とか主と書かれてあるのに対して、新約ではそれが御子イエス・キリストのことを指していることが明らかとなったのです。ただし、三位一体の神様は常に一つです。単独で何かをなされるわけではありません。そのためヘブライ 2:10 では、父なる神様によってすべては創造された（英文聖書）と書かれてあります。イエス様が主導的に責任を持って創造されたのだと思われませんが、父なる神様も常に一緒でした。

### 【木・私は今日、あなたを産んだ】

ヘブライ 1:5 に、「あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ」という詩篇 2:7 からの引用があります。父なる神様が、「今日あなたを産んだ」と言っているわけですが、この産むという言葉は、赤ちゃんとして生まれるという意味ではありません。この言葉からイエス様は神様の被造物であると解釈するグループもありますが、これは間違いです。イエス様は永遠の昔からおられるのであって、ある時点から存在するようになったのではないのです。実は、この産むというヘブライ語には、ある地位につかせるとか、公認するという意味があるのです。つまり、父なる神様がイエス様をダビデの子孫から生まれる約束の王、メシアとして公認したということなのです。また、今日とは、「昨日、今日、明日」という意味での「今日」ではなく、神様によって「定められた日」を意味しています。では、それはいつなのでしょう。イエス様が洗礼を受けられたときや、変貌の山において、神様は「これは私の愛する子、御心にかなう者」と、イエス様が神の子であることを公に宣言されました。しかし、より確かなのは、ローマ 1:4 にあるように、「死者の中からの復活によって力ある神の子と定められた」ときです。人類の罪を贖うために十字架で死なれ、三日目に復活し、父なる神の右の座についたとき、本当の意味でメシア、この世界の真の統治者として宣言されたのです。